



広報

あそ

九州北部豪雨災害  
特別号

# 大きな爪痕、阿蘇市を襲った豪雨災害

7月12日、未曾有の災害が阿蘇市を襲いました。外輪山のいたるところで土砂崩れが発生し、川の氾濫が各所で発生。一の宮地区や阿蘇地区では、甚大な浸水被害が出るなど、大きな爪痕を残しました。(写真は仙酔峡付近での土砂崩落の様子。)

# 『千年に一度』の大雨。

## 土砂崩れや浸水被害、相次ぐ。

7月11日夜から、九州北部地方で局地的に激しい雨が降りました。阿蘇市も例外でなく、気象庁は、「これまでに経験したことのないような大雨」と危機感を強め、警戒を呼びかけました。1時間の降水量が観測史上最大となる100mm以上という、非常に激しい雨が、阿蘇市の各地に大きな被害を及ぼしました。

市民の皆様へ

7月12日未明に発生した九州北部豪雨災害に際し、被災されました多くの皆様方に心からお見舞いを申し上げますとともに、不幸にもお亡くなりになられました方々に、衷心から哀悼の意を表します。

折からの豪雨と雷、暗闇の中、避難するにも避難できなかった方、崖崩れと押し寄せる濁流、相次ぐ河川の氾濫に非常に多くの市民の皆様方が驚かれ、恐ろしい思いをされたと思います。また、ご自宅が損壊などにより、今もなお、避難生活を余儀なくされておられる皆様方には、ご不自由をおかけしております。

災害発生からやがて1ヶ月を迎えますが、この間、広範囲にわたる甚大な被害の中、自衛隊、警察、消防による必死の救助救命活動や孤立された方々の救出活動に始まり、国・県・日赤をはじめあらゆる機関、また、地域消防団や婦人会の皆様方、各種団体の皆様方のご協力とご支援により緊急事態を今、どうにか乗り越えています。

災害ボランティアセンターも、本日まで「阿蘇の人たちを助けよう」と約8000名の方々に全国から駆け付けていただき、炎天下の中、おびただしい量のがれき・土砂の撤去や片付けに汗だくになりながらご活動いただいております。

ご支援いただきました皆様方に、心の底から深く感謝とお礼を申し上げます。

現在、被災された方々が早く普段の生活に戻れるよう仮設住宅の建設をはじめ、ライフラインの完全復旧、衛生・防疫対策を進めるとともに、総合的に支援すべく窓口を設置し、生活再建に向け急ピッチで進めています。

また、今回の災害では、本市の基幹産業でもある農業、観光業にも大きな打撃となりましたが、国・県に強く働きかけ激甚災害の指定をいただき、早期の復旧と復興に向け、全力で取り組んでまいります。

私たちは悠久の歴史の中でこの地に文明を築き、他地域に自慢できる「ふるさと」としてこの阿蘇をこよなく愛し続けてきました。このような惨事となりましたが、決してあきらめることなく、「開拓の魂」を奮い立たせ、全市一体となり一歩進むことによって、さらに素晴らしい安心・安全な阿蘇をつくる事が出来ます。

お互いに力を合わせてそして助け合いながら、先人たちから受け継いできたこの阿蘇を蘇らせていこうではありませんか。早期の完全復興を遂げるために、市民の皆様方のご支援を引き続きよろしくお願い申し上げます。

平成24年8月7日

阿蘇市長 佐藤義興

(写真)一の宮町坂梨地区を上空から撮影。至るところで土砂が崩落。

# 土砂崩落

一の宮町地区を中心に大規模な土砂崩れが各所で発生し、多くの犠牲者を出した。主要道路や線路も遮断され、交通機関に影響が出た。



2



1



4



3



7



6



5

中岳の北壁からぐるりと外輪山を見渡すと、土砂崩れが至るところで確認でき、目を覆いたくなるような光景が広がる。今回の災害では、大規模な土砂災害15カ所のうち、12カ所で尊い命が奪われた。

① 坂梨福岡地区の土砂崩れの現場。広範囲にわたり土砂が崩落。「ものすごい音がした」と近隣住民。この現場では、6人の方が犠牲になった。

② 中江の荻岳は、2カ所で大規模な土砂崩れが発生。頂上への道は遮断された。

③ 宮地古神地区は、河川氾濫により、道路崩落と共に電柱が傾いた。

④ 中通片隅地区は、2カ所で土砂崩れが発生した。

⑤ 箱石峠では山肌が剥がれ落ち、無残な景観が広がる。



11



8



12



9



13



10

- ⑥ 国道57号滝室坂の崩落現場。崩落後も水が出続け、危険と隣り合わせでの復旧作業が続く。(国道57号の復旧目途は9月上旬予定)
- ⑦ 坂梨地区では、土砂や大きな石の塊が至るところで崩落し、民家を直撃した。
- ⑧ 東岳川沿いの市道白粧原線でも道路が崩壊。水の恐怖を思い知らされた。
- ⑨ 勢いよく土砂が流れ出し、家屋が押しつぶされた。(手野地区)
- ⑩ 土石流により、家屋が大きく傾いた。(手野地区)
- ⑪ 北坂梨豆札地区では、至るところで土砂崩れが発生した。
- ⑫ 手野地区の土砂崩落現場。欄干には流木が溜まり、別の場所では水道管が破れ、延々と噴き出した。
- ⑬ 三久保地区では2カ所で土砂崩れが発生。家屋が飲み込まれ、3人の方が亡くなった。



2



3



1



5



4



6

## 浸水被害

河川の流域を中心に浸水被害が相次いだ。火山灰を含む泥水が流入し、撤去作業は難航している。

降り始めからの総雨量は、阿蘇市乙姫で500ミリを超え、影響は広範囲に及んだ。

黒川河川、遊水池では水が溢れ、火山灰を含んだ泥とともに、各地に浸水被害を及ぼした。

①内牧温泉入口交差点の12日午前11時頃の様子。ホテル・旅館・商店街が集結した温泉街の大部分が浸水するという、これまでにない被害となった。

②跡ヶ瀬・狩尾地区の様子。川の氾濫により田んぼ一面が湖と化した。

③目の前の光景に、ただ立ち尽くす男性。

④農機や車両が水没する被害も多発。

⑤赤水の河川沿いでも氾濫。国道から二重峠への幹線道路の通行にも影響が出た。

⑥今町、黒流地区はほとんどの家屋で浸水被害に見舞われた。



8



7



11



9



12



13



10

- ⑦川の氾濫で水没した古城公民館前。消防団が女性の手を取り、誘導した。
- ⑧内牧の街や国道沿いにも、大きな流木が多数流れ着いた。
- ⑨ホテルや旅館の宿泊客の車両も、水没被害に遭った。
- ⑩盛土して建てられた内牧支所も冠水し、業務に支障をきたした。(写真は内牧支所付近の様子)
- ⑪内牧遊水池の12日午後の様子。阿蘇市内3ヶ所の遊水池を使っても氾濫を避けられなかった。
- ⑫家畜舎も浸水や破損に遭い、牛や豚が流された。行き場を失い道沿いを歩く豚が痛々しい。
- ⑬三久保宇土地区の県道。ガードレール上まで冠水し、身動きが取れない車両。

# 行方不明者搜索

自衛隊や警察、消防による懸命な行方不明者搜索は、連日続いた。



1



2



3



6



5



4

行方不明者の搜索活動は自衛隊や消防、警察など災害発生直後から、昼夜を問わず行われた。雨が降り二次災害の危険と隣り合わせの中、懸命な救出が続いた。

①、④一の宮町三野地区で残る行方不明者1人の搜索活動は広範囲に及んだ。

②坂梨地区の救出現場の様子。各機関が連携し、搜索活動が行われた。

③災害対策本部では、夜遅くまで搜索会議が行われた。

⑤手野地区で活動する消防団の様子。消防団には12日午前4時、災害警戒巡視が指示され、被害状況や災害発生地域の報告が相次いだ。その後、地域住民の避難誘導や搜索活動にあたった。

⑥三野地区の救出現場。押し潰れた家屋の無残な光景が広がり、自然の猛威を思い知らされた。



2



1

## 現地視察

野田首相をはじめ、蒲島熊本県知事や各大臣が現地視察に訪れた。被災した現場を前に誰もが、言葉を失った。



6



5



3



4



8



7

7月20日に現地視察に訪れた野田首相は、取材に対し、「一日にも早く被災された皆様の日常を取り戻すために、国の制度を柔軟かつ迅速に対応していく。」と話した。

(2)

① 7月15日、佐藤市長から説明を受ける蒲島県知事。

③ 7月13日、いち早く中川内閣府特命担当大臣が現地入りした。

④ 野田首相への状況説明時の様子。

⑤、⑥ 多くの国会議員が視察に訪れ、被災状況を確認した。

⑦ 避難所で被災された方々の話を聞く野田首相。

⑧ 国土交通省などの国の機関も緊急に阿蘇市に入り、対策に加わった。

# 取り戻そう。いつもの阿蘇を。

未曾有の災害に見舞われた阿蘇市。梅雨明け前の記録的な豪雨は、私たちの大地と心に大きな爪痕を残していきました。

豪雨がもたらした被害は、余りにも大きなものですが、それでも前を向いて歩み始めなければなりません。復旧に向けて、数多くのボランティアが「阿蘇市のために」と全国から駆けつけ、後押ししてくれています。

復興へ、一歩一歩進んでいきます。

さあ、取り戻そう。いつもの阿蘇を。





13



8



9



15



14



10



11



12

①、⑩、⑮ ボランティアセンターでは、連日多くのボランティアが支援に訪れ、各地で作業を行っている。(7月30日現在、延べ約8000人が支援。) ② 阿蘇中学校の建設に携わった企業が「子どもたちのために」とボランティアに駆けつけた。 ③ 阿蘇中央高校の生徒も民家で泥出し作業などを手伝った。 ④ 企業や団体、個人など全国各地から「被災者のために」と、支援物資が届けられた。 ⑤ うどんやおにぎり、ラーメンなどの炊き出しで避難者を支援。 ⑥ 阿蘇地域婦人会は赤十字奉仕団として災害の翌日から炊き出しを開始。毎日、避難所の方々に何百ものおにぎりや汁物を作り貢献した。 ⑦ 7月20日、自衛隊が撤退。「自分の親と思ひ捜索したが見つかることができなかった」と悔しさをにじませた。延べ3700人が捜索活動などを行った。 ⑧ 家の片づけ作業の様子。 ⑨ 熊本市水道局や小国町、自衛隊などが給水作業にあたり、生活水の支援を行った。 ⑩ 避難所は多い時で22カ所、2257人が避難生活を余儀なくされた。 ⑫ 各地で通行止めになり、道路の復旧作業が急ピッチで進められた。 ⑬ 高く積み上げられたゴミを見上げる少年。農村公園あぴかには、大量の災害がれきの山がいくつも出来た。 ⑭ 昨年3月、震災に見舞われた宮城県東松島市の職員らも「何ができることはないか」と、阿蘇市に駆けつけた。

# 九州北部豪雨 阿蘇市の被害状況報告

7月12日に発生した九州北部豪雨。今もなお各地で阿蘇市再生への復旧・復興が急ピッチで進められており、多くの方々の支援により、少しずつではありますが、普段の生活を取り戻しつつあります。

※被害状況は8月20日時点。  
(一部を除く。)



## 阿蘇市の被害状況概略

### 人的被害

死者 21人 (男性10人・女性11人)  
行方不明者 1人 (男性1人)  
重傷者 1人 (女性1人)

### ■家屋被害 (9月21日時点)

- ▼全壊 60棟
- ▼大規模半壊 14棟
- ▼半壊 1053棟  
(うち床上浸水半壊相当数) 1051棟
- ▼床上浸水 36棟
- ▼床下浸水 387棟
- ▼一部破損 2棟



### ■道路被害 (主要道路抜粋)

(9月21日時点)

- ▼国道
    - 国道57号 滝室坂 (8月20日午後1時開通)
    - 国道265号 箱石峠 (7月25日午後3時全面開通)
    - 国道212号 内牧く大観峰付近 (7月21日午後1時から片側交互通行)
  - ▼県道 (主要道路規制箇所)
    - 別府一の宮線(三野く城山展望所) (9月6日 午前10時から片側交互通行)
    - 高森竹田線 (旧犬子迫分校付近) (平成25年5月を目途に復旧予定)
    - 内牧坂梨線 (三野付近) (平成25年1月を目途に復旧予定)
    - 阿蘇吉田線 (坊中キャンプ場付近く杵島岳三叉路) (7月23日から片側交互通行)
    - 南小国波野線 (笹倉郵便局く産山村運動公園) (7月28日から片側交互通行)
  - ▼市道 約270ヶ所 (うち小規模被害約200ヶ所)
  - ▼農道 約500ヶ所
  - ▼林道 109ヶ所
  - ▼橋梁 8ヶ所
- ※主要な市道及び橋梁の復旧状況については、16ページに掲載しています。

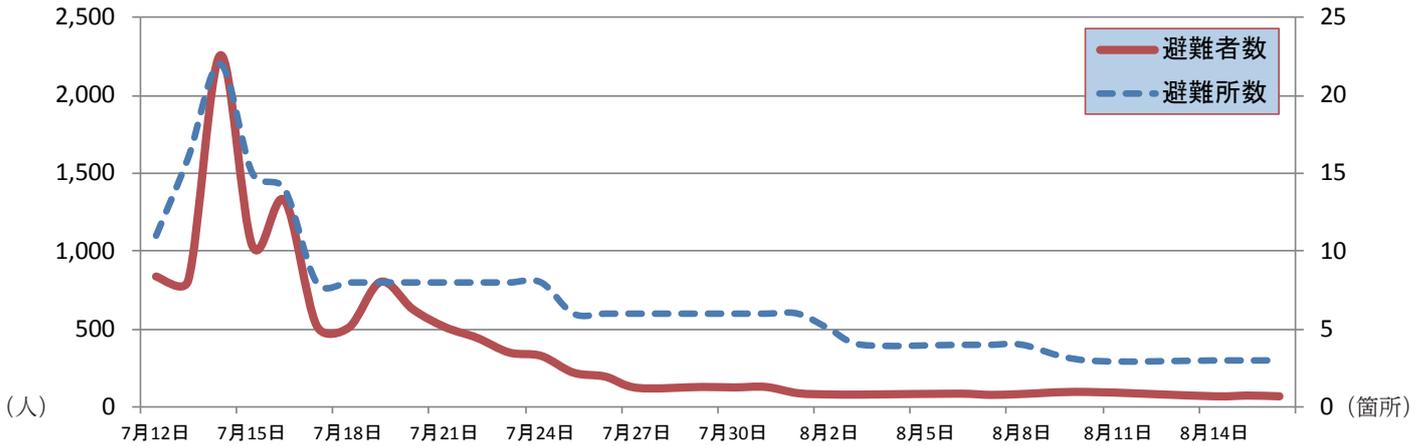
## 時系列で振り返る

### 災害経過状況

7月12日

- 0時30分 熊本地方気象台、阿蘇市に「大雨・洪水警報」発令
- 0時32分 防災行政無線により警報発令を放送。注意呼びかけ
- 0時41分 ASO安心メールで警報発令を発信
- 0時45分 災害待機班が市役所・支所待機に入る
- 1時08分 お知らせ端末により警報発令を放送。注意呼びかけ
- 2時40分 土砂災害警戒情報発令 (市内各地の住民から浸水や冠水等の情報が入り始める。Jアラートによりサイレン放送)
- 3時30分 待機職員に自主避難所開設の指示と職員配置
- 4時00分 避難所開設完了。防災行政無線とお知らせ端末により「避難勧告及び避難指示」を発令(各地区区長(自主防災組織)及び消防団により地区住民に情報伝達を実施)
- 4時55分 阿蘇市災害対策本部(水防対策本部)を設置 (これ以降、各地区住民や警戒中の消防団員から被害の状況や災害発生時の報告がひっきりなしに対策本部に入る)
- 4時55分 三野(古閑)で土砂崩れの連絡
- 5時50分 手野(古城6区)で土砂崩れの連絡
- 6時00分 三野(三閑)で土砂崩れの連絡
- 6時30分 豆札で土砂崩れの連絡
- 6時33分 手野で家が流された旨の連絡

避難所数及び避難者数の推移



●避難所は最多時 22 カ所、2,257 人の方が避難した。(7月14日、午後11時)  
※グラフの数値はその日の最大値を表示。

↓坂梨地区は7月18日、古城地区は8月7日までに復旧した。  
熊本市及び小国町の協力で給水所を開設した。



水道施設

↓7月13日には完全復旧した。  
九州電力大津営業所管内の5地区(坂梨、北坂梨、三野、手野、波野地区の約1800世帯)で停電。

電気

九州電力大津営業所管内の5地区(坂梨、北坂梨、三野、手野、波野地区の約1800世帯)で停電。



※7月12日から31日までの20日間に延べ4752人が人命救助及び行方不明者捜索活動を行った。(捜索ヶ所6ヶ所)

- ▼阿蘇市消防団 出動団員数560人
- ▼広域消防 総数77人
- ▼警察関係 総数280人 (捜索180人 総数100人)
- ▼陸上自衛隊 総数346人 (捜索272人 支援74人)
- ▼警察関係 総数280人 (捜索180人 総数100人)

各機関の災害派遣等状況

処理場が浸水、マンホール損壊等が発生したが、復旧し正常に稼働中。

下水道施設

- 6時52分 三野(古閑)で土砂崩れの連絡
- 6時55分 自衛隊に災害派遣要請
- 7時00分 坂梨で土砂崩れの連絡
- 7時00分 坂梨古恵川氾濫
- 7時07分 東岳川(国道110号)堤防決壊
- 7時40分 宮地地区水源本管の決壊のため断水状態
- 8時00分 三久保で土砂崩れ、地元で撤去作業開始
- 8時40分 車帰と的石の間で土砂崩れの連絡
- 10時30分 三久保で土砂崩れの連絡
- 10時40分 自衛隊の先発隊到着
- 10時45分 災害救助法の適用申し出
- 11時00分 自衛隊災害派遣先遣隊到着。その後熊本県警並びに日赤熊本から救助隊が到着し行方不明者の捜索活動を開始
- 11時30分 自衛隊の部隊到着。昼過ぎから自衛隊による救助活動開始
- 15時00分 災害救助法適用
- 7月13日
  - 8時35分 大雨により阿蘇市全域に避難勧告
  - 15時00分 三野の捜索が雨により中止
  - 15時10分 中川正春内閣府特命担当大臣(防災担当) 来庁、現地視察
  - 16時00分 黒川が避難判断水位に到達
  - 19時00分 三久保の捜索を終了
  - 19時55分 停電を解消
- 7月14日
  - 2時41分 洪水警報発令

## 総務部

### 光ネットワーク幹線ケーブル

土砂災害・

土石流により光ネットワークの幹線ケーブル7ヶ所の切断により、



阿蘇市内約700世帯、産山村約600世帯の計約1300世帯で、お知らせ端末が不通となった。(うち、インターネットの利用者は260世帯)

↓現在は本復旧、仮復旧により全線開通。

### お知らせ端末等の復旧

坂梨、古城、内牧、今町、黒流町、波野大道地区等を中心に、お知らせ端末約400台が水没及び流失。また、各家庭への引き込みケーブルが約100世帯で断線、その他落雷による停電などで850世帯でお知らせ端末が利用できなくなったが、現在は550世帯が復旧している。

### 公共施設の電算システムの復旧

内牧支所、阿蘇図書館、老人ホーム上寿園、阿蘇市子育て支援センターが水没し、電算システムに影響が出た。

内牧支所に設置の証明書自動交付機も一時使用不能となったが、現在は復旧している。

## 教育部

### 学校施設

▼床上浸水(校舎または体育館、武道場) 尾ヶ石東部小学校、内牧小学校、阿蘇中学校

▼土砂流入(グラウンド等) 古城小学校、尾ヶ石東部小学校、内牧小学校、阿蘇中学校、波野中学校

▼小規模土砂流入 波野中学校

(体育館)

▼その他被害 (フェンス倒壊等)

内牧小学校、阿蘇中学校、波野中学校



### 社会教育施設等

▼床上浸水 古城公民館、阿蘇図書館

### 社会体育施設

▼施設被害

一の宮総合運動公園(シャッター破損)、社教グラウンド(土砂流入) ※農村公園あびか、一の宮総合運動公園、波野総合グラウンドは、災害ごみ置き場として利用。

### 文化財

▼天然記念物「浄土寺のケヤキ」 ↓流失

▼史跡「迎平古墳群(七ツ塚)」1号墳 ↓一部表土流出

▼建造物「尾籠の六地藏」 ↓流出後、復元

▼「豊後街道(参勤交代道)」 ↓車帰、狩尾・三久保・滝室坂にて土砂崩れ・破損など

※その他は継続して調査中。

▼児童・生徒の学用品等被害状況

▼教科書の給与

小学校 ↓187冊  
中学校 ↓212冊

▼学用品被害を受けた人数  
小学生 ↓294人  
中学生 ↓86人

7時00分

7時30分

9時00分

11時15分

11時33分

11時35分

11時40分

12時15分

12時30分

12時40分

12時50分

12時55分

7月15日

3時30分

5時47分

7時00分

7時00分

7時00分

## 市民部

## 生活ごみの収集

7月12日に大阿蘇環境センター  
 未来館が浸水したことにより、  
 12・13日の収集運搬ができなくな  
 ったため、各家庭で保管をお願い  
 した。16日以降は通常どおり収  
 集を再開する。また、商工会が浸  
 水したことで指定ゴミ袋が小売り  
 店舗への供給ができなくなったた  
 め、指定外のゴミ袋でのゴミ出し  
 も可能とした。7月30日から指定  
 袋での通常収集に戻った。

## し尿処理

7月12日にし尿処理施設蘇水館  
 が浸水し、一時収集を中止したが、  
 仮施設を準備の上、7月14日から  
 一部稼働。8月から仮復旧で全量  
 受け入れ可能になった。

## 防疫対策（配布状況等）

▼消石灰↓4000袋

▼消毒液↓2219本

▼消毒作業実施場所

各行政区設置臨時仮置場、災害が  
 れき置場、浸水した地域の道路側  
 溝、広場、避難所周辺等の消毒実施。

▼浸水等の被害家屋に対し消毒薬を  
 配布し、必要に応じて区や消防団、  
 ボランティアとの連携による一斉  
 散布を依頼。

## 瓦礫処理

7月13日から阿蘇市災害廃棄物  
 計画で選定されていた瓦礫仮置場  
 3ヶ所（農村公園あびか、一の宮  
 総合運動公園、波野グラウンド）  
 で受け入れを開始した。

7月14日から5ヶ所に増やし受け  
 入れを開始。また、仮置場に自力  
 で持ち込めない方への対策とし  
 て、地区の臨時仮置場の設置する  
 よう区長に依頼した。

土砂置場は旧阿蘇北中学校と畜  
 協跡地で受け入れていたが、旧阿  
 蘇北中学校の受け入れが困難に  
 なったため、7月20日以降は岩本  
 畜産跡地（北黒川）を新たに受入  
 先として追加した。

7月23日から搬出を開始し、8  
 月5日に農村公園あびか北側舗装



●8月21日時点の搬出量  
 農村公園あびか 9,438t  
 一の宮総合運動公園 2,010t

駐車場の搬出完了。また、波野グ  
 ラウンド駐車場は8月12日までの  
 受入れとし、8月18日に搬出を完了  
 した。

畜協跡地を除く全て仮置場の受  
 入期間を8月31日までで終了し  
 た。今後、期間内に持ち込みがで  
 きなかった世帯を個別に状況確認  
 の上対応予定。

## 消費生活センターの取組み

7月13日～31日までに消費生活  
 センターに35件の相談があった。  
 中には災害に係る便乗商法に関す  
 る相談もあり、悪質な便乗商法の  
 注意喚起を呼びかける啓発を行っ  
 た。（お知らせ端末での配信やポ  
 スター掲示）

また、弁護士会や司法書士会に  
 ご協力いただき、被災者の生活再  
 建支援を目的とした相談会や、消  
 費生活問題トラブルに関する相談  
 会を緊急的に実施した。

## 市税等の減免措置等

7月17日から約1ヶ月間、内閣  
 府の定める指針に基づき、外部か  
 らの目視及び内部立入調査、また  
 被災者からの聞き取りによる住家  
 被害認定調査を行い、約4200  
 棟を調査した。（次ページにつづく）

## 7月16日

古城の全域、中通（片隅）の避  
 難勧告は継続し、その他の地域  
 の避難指示、避難勧告は解除  
 17時45分 南宮原、湯浦、西湯浦、  
 西小園、内牧5区の下り山の地  
 域、折戸の避難指示を解除、避  
 難勧告へ切り替え

7時00分 三野、箱石、赤水の捜  
 索開始

11時34分 箱石で行方不明者発見

15時38分 大雨洪水警報発令

16時28分 地元消防団より竹林住  
 宅内冠水の情報

16時43分 土砂災害警戒情報発令

16時49分 県道内牧～坂梨線、は  
 な阿蘇美交差点付近、消防団よ  
 り冠水情報

17時00分 鷲の石、南宮原、湯浦、  
 西湯浦、西小園、内牧5区の下  
 り山の地域、折戸の避難指示を  
 発令

17時00分 折戸コミュニティセン  
 ターを中心に南北に200m冠水

17時10分 坂梨（古閑、神石、福  
 岡、馬場、豆札）、古城の全域、  
 中通（片隅）の避難指示

17時20分 鷲の石地区4ヶ所山腹  
 が崩壊。山田消防団通報

19時31分 洪水警報解除（注意報  
 に切り替わり）

## 7月26日

12時00分 全ての地域の避難勧告  
 を解除、坂梨（福岡、馬場、豆  
 札）、古城の全域、中通（片隅）  
 に避難準備情報を発令

なお、7月20日から26日までの7日間においては、10班集体、延べ約200人による集中調査を行い、約2900棟の調査を終えた。被害を受けた納税義務者に対して、平成24年度分固定資産税及び個人市民税並びに国民健康保険税について、災害減免を行うとともに、徴収猶予及び延滞金額の減免等の措置を講じている。

被災者生活再建支援受付状況

- ▼災害弔慰金 13件
- ▼災害援護資金 1件
- ▼災害見舞金 1057件
- ▼被災者生活再建支援金 58件



▲被災者支援窓口の様子

避難所

8月20日時点、一の宮体育館、坂梨公民館、農村環境改善センターの3ヶ所で継続中。8月末を解消目途として避難所対応予定。※人数等については、13頁左上参照

保健師活動

熊本県市町村災害時相互応援に関する協定により、県内22市町村延べ92人その他、左記団体が阿蘇市に入り、避難所支援と被災を受けた世帯1331世帯(不在含む)を訪問し、健康状態の確認や熱中症予防の啓発、うがい薬などの配布等の対応に当たった。

▼その他派遣団体 熊本県、静岡県、JA厚生連、熊本県看護協会

支援物資

総数200件に近い企業や個人から支援物資を受け、必要に応じ各避難所へ物資を届けた。

福祉関係公共施設の状況

▼一の宮高齢者センター・温泉センター 土砂災害により、施設の機能が完全に停止。現在は各施設の瓦礫・流木・土砂等はほぼ搬出を完了した。今後の復旧は未定。

老人ホーム上寿園

浸水被害により施設利用が不能になり、入所者44名の移転を余儀なくされた。7月末までに全ての方の措置変更手続きを完了。今後の施設運営については未定。

阿蘇市子育て支援センター

浸水被害により、施設利用不能。

今後の開所予定は未定。

土 木 部

市道等の被害状況

市道及び市管理河川の小規模被害の応急工事を施工中だが、現在も未確認被害現場の通報がある状況。

- ▼道路被害 約190カ所(堆積土砂の撤去、路面損壊の修繕等)
- ▼河川被害 約110カ所(断面閉塞、護岸損壊等)

※左下に主要道路一覧掲載

公共土木施設災害

▼道路57ヶ所  
▼河川56ヶ所  
▼橋梁4ヶ所

市営住宅被害状況

▼竹林団地 20戸  
▼新橋団地 25戸  
▼番出団地 17戸  
▼小里団地 96戸  
▼大道団地 9戸

応急仮設住宅建設状況

▼高田住宅(四季彩いちのみや) 25戸  
▼東池尻住宅 15戸  
▼馬場住宅 2戸  
▼立塚住宅 1戸

※今後、第2期応急仮設住宅5戸及び談話室の建設を計画予定。



▲8月末に完成した仮設住宅

市道の主要道路等規制状況と復旧見通し

規制状況	路線名	所在地	復旧見通し
全面通行止	木落線	一の宮町中通(県道～ミノロード)	H 24.10
	狩尾幹線	狩尾(県道～ミノロード)	H 25.4
一部全面通行止	尾籠線	一の宮町手野尾籠付近	H 24.12
	島廻線	一の宮町北坂梨豆札付近	未定
	鳥越線	一の宮町北坂梨馬場付近	H 25.3
	黒川線	一の宮町宮地無田口付近	未定
	古城坂梨線	一の宮町宮地無田口付近	未定
	下ごみ崎線	一の宮町宮地古神付近	H 25.4
	五本松線	一の宮町宮地古神付近	H 25.3
橋梁崩落(通行不可)	山田橋	山田(黒川河川)	H 27.3
	鷲の石橋	山田鷲の石(黒川河川)	H 27.3
	黒流橋	黒流町(西岳川河川)	H 27.3
	西浜橋	黒川(西岳川河川)	H 27.3
	泉川橋	西町(泉川河川)	H 24.12

■水道施設被害状況

▼上水道 24件、4千9万円  
▼簡易水道 20件、749万円  
(合計) 44件、4千758万円

※全ての施設について、応急復旧により通常給水。今後、本復旧工事に着手し、年度内の竣工を目指す。

■下水道施設被害状況

▼阿蘇市浄化センター 処理場沈砂池棟浸水により一部機器が被災

▼新橋汚水中継ポンプ場 浸水により、一部機器が被災し機能停止

▼浜川マンホールポンプ場 制御盤浸水により、設備が使用不能

※全ての施設について、応急復旧により通常運転中。今後、本復旧工事に着手し、年度内の竣工を目指す。

経 済 部

■観光への影響と中小企業被害状況

特に被害が甚大だった内牧温泉等の宿泊施設は、被害を受けた19件中5件が現在も休業中。営業している宿泊施設でもキャンセルが相次ぎ、延べ約3万2500人、約4億8百万円の被害額となっている。

また、各商業施設は、大半の施設

設で営業を再開しているが、阿蘇市外からの入込み客が激減している。このような状況により、道の駅「阿蘇」、道の駅「神楽苑」、はな阿蘇美が協賛して、阿蘇高原野菜の無料配布を博多駅で実施。その他、熊本駅でも観光キャンペーンを行いPRした。

災害復旧費用や運転資金は、阿蘇市商工会内に特別相談窓口を設け、融資や雇用等の総合相談を実施。その他、阿蘇市のイベントは夏の各祭り等を自粛したが、「大阿蘇元気ウォーク」はコース内容を一部変更して実施した。



▶博多駅で行われた観光キャンペーンの様子。

■農業の被害状況と今後の対策 (10月1日時点)

対応状況及び今後の対策	被害状況	
 <p>○土砂等の土捨場を兼用した圃場の高上げを含む区画整理の再整備を検討。</p>	<p><b>農地</b> (被害面積：2,068ha) (件数：10,806件) (被害額：8,105,160千円)</p> <p><b>農業用施設</b> (件数：1,153件) (被害額：1,153,150千円)</p> <p><b>合計被害額</b> 9,258,310千円</p>	農地、農業用施設関係
<p>○今後、事業説明会を実施し、緊急治山工事に着手し、年度内の完了を目指す。</p> <p>【林業施設関係】 ○管内林道等の被害状況調査を実施し、復旧事業量の把握と確認。</p> <p>○今後、随時復旧工事に着手する。</p>	<p><b>山腹崩壊</b> (件数：334件) (被害額：13,832,350千円)</p> <p><b>林道</b> (件数：22件) (被害額：208,767千円)</p> <p><b>合計被害額</b> 14,041,117千円</p>	治山、林道関係
<p>○被災した圃場を対象に、農地等災害復旧事業による応急本工事を実施し、作付困難圃場の解消を実施。</p> <p>【施設園芸】 ○被災した圃場を対象に、農地等災害復旧事業による応急本工事を実施し、作付困難圃場の解消を実施。</p> <p>○ビニールハウス等の再建・修繕に係る機関と連携して実施。</p> <p>【全般】 ○今後、中山間地域等直接支払制度を活用した災害対策支援を検討。</p>	<p><b>水稻</b> (被害額：179,467千円)</p> <p><b>大豆等</b> ( // : 9,956千円)</p> <p><b>トマト等</b> ( // : 264,772千円)</p> <p><b>キャベツ</b> ( // : 48,756千円)</p> <p><b>バラ等</b> ( // : 42,638千円)</p> <p><b>温室・農機具等</b> ( // : 402,833千円)</p> <p><b>合計被害額</b> 948,422千円</p>	農産物関係
<p>○管内牧野組合に対する緊急単県事業説明会を開催し、放牧環境の復旧対策等への支援策を説明。</p> <p>【牧野関係】 ○管内牧野組合に対する緊急単県事業説明会を開催し、放牧環境の復旧対策等への支援策を説明。</p>	<p>(左：被害頭数/右：被害額)</p> <p><b>肉用牛</b> (50頭/21,414千円)</p> <p><b>豚</b> (1,780頭/57,159千円)</p> <p><b>養鶏</b> (1,600羽/2,560千円)</p> <p><b>飼育作物</b> (125ha/8,374千円)</p> <p><b>畜舎、牧野施設等</b> (60,004千円)</p> <p><b>合計被害額</b> 149,511千円</p>	畜産関係

# ボランティアの皆さんに感謝。

## 阿蘇市災害ボランティアセンターを通じ

### 延べ14,210人が支援

## 災

害発生翌日、7月13日に被災者支援を目的に社会福祉協議会が開設した阿蘇市災害ボランティアセンター。

8月20日に活動を終了するまでの39日間に、延べ1万4210人の方々にご支援をいただきました。

被災者からの支援依頼は754件あり、活動終了までに全ての依頼案件を完了。北は昨年震災で被害を受けた宮城県気仙沼市から、南は沖縄県まで、全国各地からボランティア

に駆けつけていただき、阿蘇市の復旧は大きく前進しました。

## 「感謝の意は 尽くせない。」

阿蘇市民の多くの方々にもボランティアとして支援いただきました。

阿蘇市内にある唯一の高校、阿蘇中央高校でも「地元がこのような状況で、何もしないわけにはいかない。」と、全校生徒によるボランティア参加を決定。生徒は泥まみれになりながら、家屋に流

入した泥の撤去作業や家屋の清掃など2日間にわたり行っていたいただきました。また、阿蘇市商工会青年部では、独自でボランティアを募り、県内の商工会から多くの方々がボランティアとして、作業にあたっていました。

支援を受けた市民からは「真夏の作業にもかかわらず懸命に働かれる姿に感謝の意は尽くせない」と誰もが強く口にされました。



## episode1

内牧のホテルや旅館には、ニュース等で被害を聞きつけた常連のお客さんなどが駆け付け泥出しや片づけなどを手伝っていただきました。

熊本工業高校と開新高校の陸上部は、7月16日、いつも合宿で利用している「ほこすぎ荘」の泥出しや片づけに協力。人数が多く周囲の神社などにも分かれ作業が行われました。

「いつも僕たちによくてくださる旅館の方や阿蘇市の方に恩返しができた」と生徒たち。その優しい気持ちに、旅館の皆さんも「これからも頑張ってください！」という気持ちになっておられます。



「がんばれ阿蘇市！」と全員で掛け声。



episode2

(社)熊本県建設業協会阿蘇支部(内田知行支部長)と阿蘇市建設業協会(島村文博会長)は8月10日、阿蘇市管内の市道や生活道路の清掃などの緊急ボランティア作業を合同で行いました。

参加したのは両組織の会員80社、約240名で、市内24箇所の地域で道路沿いに流出した土砂や流木、散乱したゴミなどを重機と手作業で撤去作業にあたりました。

内田支部長は「阿蘇市民の方がいち早く普通の生活を取り戻せるように、今回の作業が一助となれば」と話されました。



▲狩尾地区で道路沿いの土砂撤去を行う作業員

「この支援を、忘れてはいけない。」

取材を通して、ボランティアの皆さんに共通することは、誰もが笑顔で元気いっぱい作業をされていたことでした。そして、口々に「阿蘇のために役に立てれば」と話されていました。炎天下に、暑さをもとめせず懸命に作業に取り組む姿に、ただただ頭が下がる思いでした。

私たちは、皆さんから受けた支援を忘れてはいけません。そして、この先阿蘇市が復興を経て、元氣な阿蘇市を見ることが一番の恩返しではないでしょうか。今回、ボランティアに参加いただいた全ての方に、心から感謝の意を表します。本当にありがとうございます。

《お知らせ》

今後の災害ボランティアの依頼については、「阿蘇市ボランティアセンター」で対応してまいります。また、地域の方々からのご依頼に対し、ボランティアさんの参加が必要になった場合は、阿蘇市社会福祉協議会ホームページ等でお知らせします。

●問い合わせ

阿蘇市ボランティアセンター  
(阿蘇市社会福祉協議会内)  
☎0967-32-1127

episode3

総合型地域スポーツクラブ「火の山スポーツクラブ」も、多方面で支援を行いました。

7月27日は、避難所生活で溜まるストレスを解消してもらおうと、農村環境改善センターでストレッチ体操やゲームで心と体を和ませました。

また、ボランティアの方々に対し、一日作業をして疲れた体を癒してもらおうと、かき氷を振る舞い、ボランティアの方々も大変喜ばれていました。



# 復旧への取組み、着々と。



多くのボランティアの方々が、阿蘇市を支援。泥と汗にまみれながらの復旧作業、本当にありがとうございました。



国道 57 号滝室坂では、災害により土砂が崩落し通行止めが続いたが、8 月 20 日、39 日ぶりに規制が解除された。

※この「九州北部豪雨災害特別号」は、広報あそ平成24年8・9月号に掲載した災害関連情報を、一部編集して発行したものです。

